

学びの居場所架け橋計画

～令和7年度 校内居場所（別室）対応指導員のモデル配置～

1 文京区の不登校の状況

○令和6年度における不登校児童・生徒数（累積欠席日数30日以上）

【小学校】

・令和6年度の不登校の総数は215名で、令和5年度の184名より31名増加した。

・年間の出現率は令和5年度の1.67%（184名）から1.91%

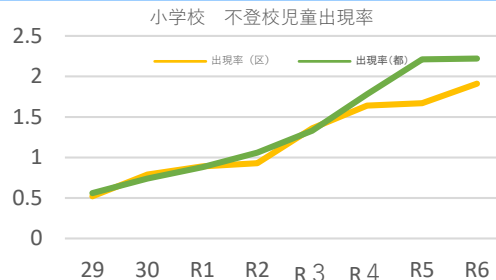
（215名）

【中学校】

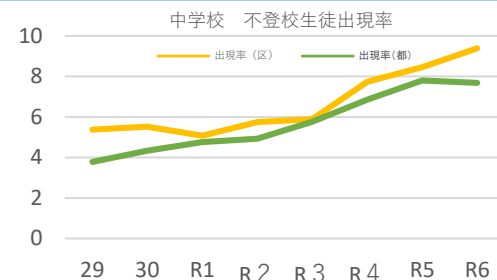
と0.24%上がった。

・令和6年度の不登校の総数は230名で、令和5年度の202名より28名増加した。

・年間の出現率は令和5年度の8.46%（202名）から9.39%（230名）と、0.93%上がった。



年度	不登校児童数 (人)	区出現率：％ (都出現率：％)
R4	173	1.64 (1.78)
R5	184	1.67 (2.21)
R6	215	1.91 (2.22)



年度	不登校生徒数 (人)	区出現率：％ (都出現率：％)
R4	183	7.74 (6.85)
R5	202	8.46 (7.8)
R6	230	9.39 (7.68)

2 校内居場所（別室）対応指導員モデル事業

<事業概要>

不登校児童・生徒が安心して教育を受けられるよう、学校における環境の整備の推進を図るため、令和5年4月から小・中学校のモデル7校で、学校内の居場所に、週5日1人の指導員を配置し学校内の居場所を確保することを目的として開始しました。

令和7年4月からは、モデル校を小・中学校20校まで拡充し、各校に別室で児童・生徒に対応するための指導員を週5日配置しました。

<モデル校実績>

令和7年4月配置（20校）

小学校：青柳小学校・金富小学校・窪町小学校・千駄木小学校・
汐見小学校・本郷小学校・礪川小学校・昭和小学校・
柳町小学校・駕籠町小学校

中学校：全区立中学校

<実施内容>

指導員は、不登校の兆候がある児童・生徒への早期対応等の方策として、教室以外の校内の別室において児童・生徒の学習活動の支援、見守り、関係教員との調整等の支援をしています。

<児童・生徒 利用者人数（人）> ※各学校で利用開始の確認を取った人数です。

	1学期末（7月）	2学期末（12月）	3学期末（3月）
小学校	79	107	117
中学校	62	87	103
総計	141	194	220

3 事例を通じた成果と課題

成果

- 学校に全く登校できていないが、学校の働きかけで担任と定期的に会うことができるようになった。
- 登校渋りで遅刻や欠席が多かった児童が別室を利用し始めてから欠席が減り、表情も明るくなり、授業に参加できる時間が増えた。
- 別室に登校していることによって、教員がクラスや学年の様々な情報を、よりタイムリーに伝えることができるようになった。

【保護者の声】

- 別室があるおかげで、他学年の人と交流することができたり、学校に通う習慣がついたりすることができ、安心して登校させられている。

課題

- スペースの問題から、他生徒との距離の近さに躊躇し利用に踏み切れないケースがある。
別室を利用する生徒が増えた場合一人一人への対応が難しくなり、スペースの確保も厳しい。
- 児童・生徒一人一人の状況が異なるため、どのような生徒にも別室が安心して過ごせる居場所となるための工夫を常に検討していく必要がある。